

平成21年度実施 地域ICT利活用モデル構築事業 成果報告書

実施団体名

徳島県

事業名称

とくしま農山漁村ポータルシステム

1. 事業実施概要

人と地域を結ぶ情報発信と情報交流の仕組みを構築し、次のとおり本県の地域活性化・農林水産業の活性化を図ります。

(1) 誰もが簡単、便利、手軽に本県の地域情報・農林水産業に関する各種情報等を入手でき、ありのままの本県を知ってもらうとともに、各種農林水産関係スポットへの案内などを地図情報や動画情報とともに提供する。また、本県農山漁村への就業支援情報や体験情報など各種情報発信および収集の拠点とし、交流人口の拡大を通じて地域活性化を図る。

(2) 農林水産業への就業に関する体験や研修、相談の案内に加えて、農地情報や空き家等の住居情報などを地図情報や画像情報等とともに提供し、ふるさと回帰、農林水産業就業希望者とのマッチングをシステムを通じて行い、定住人口拡大を通じて地域活性化を図る。

(3) 「食材の宝庫」情報、「農山漁村体験」情報、「ふるさとチャレンジ」情報など、本県の農山漁村が持つ魅力や潜在的な能力を余すことなく情報発信し、県内への都市住民等の誘導のみならず交流を図ることにより、地域活性化を図る。

(4) 県民の方が、気軽に情報発信し、また県内情報を入手でき、情報交流の活発化、仮想空間上での地域コミュニティの形成を実現し、地域再発見などを通じ地域活性化を図る。

2. 目標の進捗状況

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
システムの構築	100%	100%	○	システム構成決定、契約、開発等
〃	100%	100%	○	コンテンツ契約、開発等

<委託業務説明書>

1 平成21年度事業実施において明らかとなった課題

とくしま農山漁村ポータルシステムは、人と地域を結ぶ情報発信と情報交流の仕組みを構築し、徳島県の地域活性化、農林水産業の活性化という「2つの活性化」を図るものとして位置づけている。システム構築において、徳島県の地域情報、農林水産業の振興につなげるためのコンテンツ（情報）の収集、構築が重要であり、システム仕様面で検討を加えた。また、県内外から本県へ高速道路等を利用して入ってくる方々に対して、農林水産関係スポットを中心に、県内の観光資源（地域イベントの日程、場所）等を地図上で誘導・案内できるシステムとして情報発信のツールとして機能強化したい。

なお、情報の登録方法や周知方法、ユーザ登録方法については今後の検討課題とした。

2 自律的・継続的運営の見込み

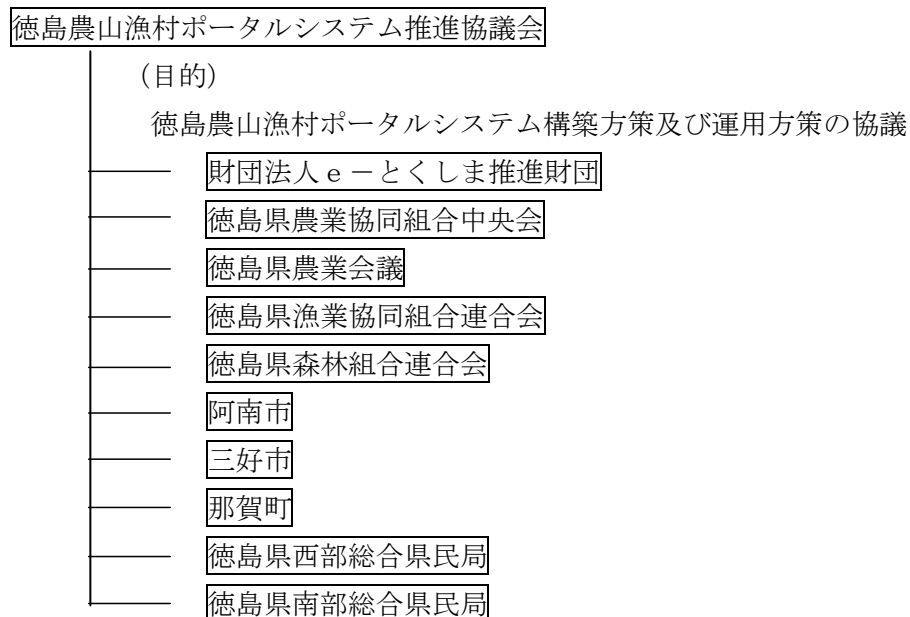
広告収入で自立的・継続的に運営できる見込み。

3 今後の展開方針

システム稼働を平成22年4月に試験運用を開始し、運用上の問題点の整理と対策が完了した後、本格運用へ移行する予定。

<実施体制説明書>

1 実施体制



2 各主体の役割

No	名 称	役 割
1	財団法人 eーとくしま推進財団	システムの普及・促進に係る検討
2	徳島県農業協同組合中央会	農林水産業振興のために効果的な情報受発信の方策検討
3	徳島県農業会議	
4	徳島県漁業協同組合連合会	
5	徳島県森林組合連合会	
6	阿南市	市町村の交流・定住人口拡大のために効果的な情報受発信の方策検討
7	三好市	
8	那賀町	
9	徳島県西部総合県民局	県民の利便性向上に必要な効果的な情報の受発信の方策検討
10	徳島県南部総合県民局	

事業実施進行表

実施内容	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	H22 1 月	2 月	3 月
協議会等開催		△				△			△
システム構成の 検討・決定	→								
システム構築に 係る競争入札			→						
システム開発						→			
システム稼働									→
報告書作成									→

その他

本事業により構築したウェブサイト

<http://www.ittoku.info/>

平成22年3月31日

平成21年度実施 地域ICT利活用モデル構築事業 システム設計書

実施団体名：徳島県

代表団体名：

事業名称：とくしま農山漁村ポータルシステム

1 概要

(1) Google Maps や YouTube などの Web サービスをマッシュアップにより組み合わせ、新しい Web サービスを提供するシステム。

(2) すべてオープンな技術を活用したシステム。

プログラム言語：Java, JavaScript

フレームワーク：EJB3.0, JSF, JBoss Seam, jQuery

APサーバー：JBoss

Webサーバー：Apache

データベース：MySQL

OS：CentOS

(3) その他

- ・携帯電話への対応
- ・一般参加型のコミュニケーションシステム

2 運用結果

3月中旬から下旬にかけて検証のため運用したところ、稼働については格段の問題はなかった。

3 課題・改修の必要性

動画情報を効果的にアピールするために、インターフェースを改善する必要がある。

4 その他